

2020年2月7日

サステナブル投資残高アンケート 2019 調査結果

アンケート結果サマリー

日本サステナブル投資フォーラム（JSIF）では第5回目となるサステナブル投資残高アンケート調査を実施しました。^A 国内に拠点を有する43の機関投資家のサステナブル投資合計額は前年比45%増の336兆396億2,000万円でした。^B

① サステナブル投資残高合計（金額は百万円単位）^C

	2018年	2019年	前年比
サステナブル投資残高合計	231,952,250	336,039,620	+45%
総運用資産残高に占める割合	41.7%	55.9%	
機関数	42	43	

^A 本調査は2015年より毎年実施しております。また調査にあたってはJSIFで連絡先を把握できた機関へ協力依頼をメールで送付しました。またPRIジャパンネットワークに国内に拠点を有するPRI署名機関への周知にご協力いただきました。

本調査の質問内容については下記のURLをご参照ください。

<https://japansif.com/JSIFsurvey2019qa.pdf>

なお集計の時点については原則、2019年3月末の数値のご回答をお願いしています。

^B 公開情報を基に集計に加えた年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の数値について、同法人が公表する「2018年度ESG活動報告」において、すべての運用資産をESG投資に該当すると記載しています。しかし今回の集計では、自家運用の国内債券（26兆3,486億円）・短期資産（7兆6,808億円）・財投債（8,963億円）の合計34兆9,257億円については、GPIFの国内債券運用のうち83%が日本国債であることもあり、ESGインテグレーション、エンゲージメントは容易でないとJSIFでは考え、その取り組み内容がまだ公開されていないこともあり、今回は集計から除外することとしました。なお、2020年に行うアンケート集計では、GPIFの今後の取り組みと開示を参考にするとともに、その結果がグローバルな集計であるGSIR2020に反映されるため、各国のSIFによる公的債務に関する取り扱いを確認して統一した基準で集計する予定です。

^C サステナブル投資残高合計、および運用手法・資産クラスごとの2016年調査以降の数値データについて、JSIF会員様にはエクセルファイルでのご提供を予定しております。準備ができ次第お知らせいたします。

②-1 運用手法ごとのサステナブル投資残高（金額は百万円単位）^D

	2018年	2019年	前年比
ESG インテグレーション	121,511,832	177,544,149	+46%
ポジティブ・スクリーニング	6,425,278	11,685,122	+82%
サステナビリティ・テーマ型投資	2,014,546	3,454,089	+72%
議決権行使	132,034,774	187,435,331	+42%
エンゲージメント	140,754,582	218,614,475	+55%
ネガティブ・スクリーニング	17,328,216	132,232,671	+663%
国際規範に基づくスクリーニング	31,604,106	25,560,889	-19%

②-2 資産クラスごとのサステナブル投資残高（金額は百万円単位）^D

	2018年	2019年	前年比
日本株	137,385,115	127,883,665	-7%
外国株	80,482,008	81,545,344	+1%
債券	28,891,704	146,178,377	+406%
PE	281,901	1,732,175	+514%
不動産	4,637,032	6,775,910	+46%
ローン	10,236,320	10,455,582	+2%
その他	4,718,818	6,321,161	+34%

本件に関するお問い合わせ先

日本サステナブル投資フォーラム(JSIF) 事務局 担当:吉田

E-MAIL yoshida@japansif.com

^D サステナブル投資残高合計の算出にあたっては、インベストメント・マネージャーとアセット・オーナーの投資残高の重複を極力避けた計算をしています。ただし運用手法・資産クラス別の残高については重複排除の計算が困難のため、インベストメント・マネージャーの受託額、アセット・オーナーの委託額が重複した数値となっている。また運用手法については複数回答による数値の重複があり、資産クラスには未回答の機関もある。このため運用手法ごと、資産クラスごとの合計は、①のサステナブル投資残高合計と一致しません。

運用手法の定義

国際的な SIF 団体 “The Global Sustainable Investment Alliance” の定義を元に、日本の現状に即した形になるよう JSIF で一部手を加えております。

ESG インテグレーション

通常の運用プロセスに ESG（環境、社会、コーポレート・ガバナンス）要因を体系的に組み込んだ投資。（例：投資前の ESG 評価・スクリーニング、デューデリジェンス、投資後のモニタリングやエンゲージメント。）

ポジティブ(ベスト・イン・クラス)・スクリーニング

業界の同業他社と比較し ESG 関連の評価が高い企業等に投資する。

サステナビリティ・テーマ型投資

- 株式…再生可能エネルギー、環境技術、農業、女性活躍、SDGs 等のサステナビリティテーマ・インパクトに着目した株式投資。
- 債券…グリーンボンドやワクチン債等のサステナビリティテーマ・インパクトに着目した債券投資。
- その他資産…サステナビリティ・テーマ型の株式・債券投資以外の投資。（例：不動産、コミュニティ投資等）

議決権行使

議決権を行使する。

※ESG に関する議決権行使に限りません。

※議決権行使の判断を助言会社に委託しているものも含めて構いません。

エンゲージメント

エンゲージメント方針に基づき、株主として企業と建設的な対話を行う。あるいは議決権以外の株主権を行使する。

ネガティブ・スクリーニング

倫理的・社会的・環境的な価値観に基づいて、特定の業種・企業を投資対象としない。

※単に ESG レーティングを適用し、評価が低い企業を投資対象外とする場合は該当しません。

国際規範に基づくスクリーニング

国際機関（OECD、ILO、UNICEF 等）の国際規範に基づいた投資。（例：オスロ条約→クラスター爆弾関連企業に投資しない）

「サステナブル投資残高アンケート調査」へ投資残高をご回答いただいた機関一覧

全 41 機関

朝日生命保険相互会社	大和証券投資信託委託株式会社
朝日ライフアセットマネジメント株式会社	T&D アセットマネジメント株式会社
アセットマネジメント One 株式会社	DBJ アセットマネジメント株式会社
アムンディ・ジャパン株式会社	東京海上アセットマネジメント株式会社
AD インベストメント・マネジメント株式会社	東京海上日動火災保険株式会社
NN インベストメント・パートナーズ株式会社	ニッセイアセットマネジメント株式会社
MS&AD インシュアランスグループホールディングス株式会社	日興アセットマネジメント株式会社
MU 投資顧問株式会社	日本生命保険相互会社
株式会社かんぽ生命保険	野村アセットマネジメント株式会社
コムジェスト・アセットマネジメント株式会社	富国生命投資顧問株式会社
J-STAR 株式会社	プロロジス・リート・マネジメント株式会社
ジャパン・リート・アドバイザーズ株式会社	三井住友アセットマネジメント株式会社
上智大学	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
スパークス・アセット・マネジメント株式会社	三菱 UFJ 国際投信株式会社
セコム企業年金基金	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	三菱商事・ユービーエス・リアルティ株式会社
損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社	明治安田生命保相互会社
第一生命保険株式会社	株式会社りそな銀行
大同生命保険株式会社	ロベコ・ジャパン株式会社
太陽生命保険株式会社	非公開を希望した回答機関 2 機関

公開情報に基に集計へ加えた 2 機関

年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF)
地方公務員共済組合連合会